

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—平成29年10月10日
帯広開発建設部

報道機関各位

十勝川の河川事業により27万6千 m^3 の掘削土を提供し、昨年8月豪雨による被災農地の災害復旧支援（平成29年6～10月分）を完了

帯広開発建設部では、十勝川の洪水氾濫を未然に防ぐ対策として河道掘削を実施しています。

昨年8月の一連の台風災害の影響により表土流出等の被害があった十勝川流域の農地に対する災害復旧支援として、今年6月9日から十勝川の河道掘削土の提供を行ってきましたが、10月4日までに27万6千 m^3 の運搬(ダンプトラック約5万台分)を実施しました。

昨年の北海道においては、8月17日から31日までの2週間に3つの台風が上陸、1つの台風の接近により道東を中心に記録的な大雨となり、十勝川流域の農地では、表土流出などの大きな被害が発生しました。

帯広開発建設部では、河川整備計画等に基づき、十勝川の洪水氾濫を未然に防ぐ対策として、河道掘削を実施しているところですが、今回被災した農地の迅速な災害復旧を図ることを目的として、帯広市、清水町、芽室町、十勝総合振興局、関係するJA、帯広開発建設部などを構成員とする「平成28年度大雨災害に係る農地の災害復旧工事と河川工事との十勝地方連絡調整会議」が開催され、河川工事などにより発生する土砂の提供などについて協議を行いました。

帯広開発建設部では、同会議に基づき調整が図られた農地に対し、今年6月9日から河道掘削土の提供を行ってきましたが、平成29年10月4日までに27万6千 m^3 （ダンプトラック約5万台分）の運搬が完了しましたのでお知らせいたします。平成28年度に運搬した量と合わせると、これまでに44万 m^3 を運搬しました。

なお、今年度下半期についても、十勝川では「北海道緊急治水対策プロジェクト」の一環として河道掘削を推進していく予定であり、引き続き同会議において関係者と調整し、河道掘削土の提供など被災農地の支援をしてまいります。

※プロジェクトの詳細は、以下のURL から御参照ください。

「北海道緊急治水対策プロジェクト」

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ob/release/ct111r000000rqq-att/chisui28032.pdf>

【問合せ先】

○河川掘削土の運搬に関すること

国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

池田河川事務所 副所長 坂内 利孝 電話 015-572-2661（代表）

○その他に関すること

国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部

治水課

課長 米元 光明 電話 0155-24-4105（内線291）

帯広開発建設部ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/ob/index.html>



十勝川における河道掘削土の運搬について (1)

【十勝地方における取組】

○十勝川流域の農地では、平成28年8月の洪水などによって表土流失などの大きな被害が発生。これら農地の迅速な災害復旧を図るため、帯広市、清水町、芽室町、十勝総合振興局、関係するJAなどとともに、「平成28年度大雨災害に係る農地の災害復旧工事と河川工事との十勝地方連絡調整会議」などを開催。

帯広開発建設部では、河川事業による農地の災害復旧支援のため、昨年度に続き、**十勝川の河道掘削土を被災農地に提供することとして、芽室町(6月9日から)、清水町(6月19日から)、帯広市(7月10日から)へ順次運搬を行った。**

清水町 9月16日運搬終了
運搬土砂量 9万9千m³

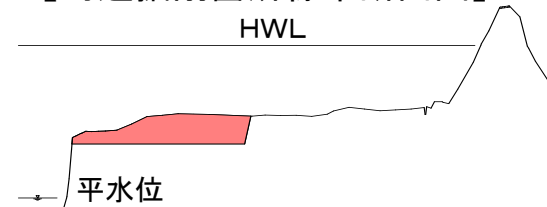
平成29年6～10月の河道掘削土運搬
運搬先: 帯広市、芽室町、清水町
合計運搬土砂量 27万6千m³
ダンプトラック換算台数 約5万台

河道掘削箇所
幕別町新川・豊頃町統内

帯広市 10月4日運搬終了
運搬土砂量 7万7千m³

芽室町 9月13日運搬終了
運搬土砂量 10万m³

【河道掘削箇所標準断面図】



十勝川における河道掘削土の運搬について（2）

復旧前の農地



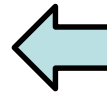
河川掘削土の搬出状況



復旧完了した農地



被災農地への積み卸し状況



【土砂運搬状況】

- ・運搬車両は日平均で約600台程度。
- ・運搬車両の前面に横幕を掲揚し、災害復旧を支援。

土砂運搬車輛
北海道開発局 帯広開発建設部
災害支援対策
池田河川事務所 運搬協議会

◆平成28年度に災害復旧支援として河川掘削土を提供した農地の復旧状況



芽室町渋山地区(ジャガイモの作付状況)



帯広市清川地区(グリーンピースの作付状況)

【地元農家のご意見】(十勝総合振興局南部耕地出張所を通じて聞き取り)

- ・昨年の状態からは作付けに間に合うと思っていなかったため、作付けができて安心している。
- ・農地が流され、復旧には大量の土砂が必要であったため、どのように確保するか非常に心配であったが、河川からの土が運ばれて復旧でき、感謝している。

等